

ISSN-1348-8872

# AMAMI News Letter

NO.10



## ■ 研究調査レビュー

奄美群島における風化残積土（赤土等）の土質特性（その1）

島嶼社会の持続的発展のために（その2）

物流から見た奄美経済

島嶼における「法＝社会」研究の課題

---

奄美ニューズレター

鹿児島大学

2004年9月

## ■ Research Review

- 1 Soil properties of residual soils in the Amami Islands (1)  
Kitamura Ryosuke (Faculty of Engineering)  
Nakano Yujiro (Graduate Student, Graduate School of Science and Engineering)  
Fukami Kenichi (Graduate Student, Graduate School of Science and Engineering)
  
- 6 Aiming at the Sustainable Development of Island Communities (2)  
Minamura Takeichi (Faculty of LEH)
  
- 14 Physical distribution of the Amami Islands  
Yamamoto Kazuya (Faculty of LEH)
  
- 21 Research Agenda for Islands from a Socio-Legal Perspective  
Yoneda Kenichi (Law School)

## ■ Information

AMAMI News Letter



## 研究者の開発プロジェクトと『奄美ニューズレター』

「島嶼圏開発のグランドデザイン」プロジェクト代表

山田 誠

私たちは、新しい島嶼開発の方式を作り出す目的で研究プロジェクトを組織した。このプロジェクトは、進め方もこれまでの学術研究にはないスタイルをとる。『奄美ニューズレター』はそのスタイルの特徴を集約的に表現している。

学術組織の研究者が新開発方式を具体的に提示できるまでには解決すべき難問が山積みされている。実際の開発方式は、総合的でいくつもの要因と多様な関係者がぶつかり合うプロセスを経て生み出される。自己を専門領域に閉じ込めることで業績を築いてきた研究者たちは、ここで、複雑に絡み合った未整理の「生きた現実」と出会う。今までとは違った対象を前に、お互いにかなり異質な発想をする集団が、どうやって新方式創出の成功にたどり着くかは、まったく雲をつかむような話である。何よりも、このプロジェクトにあっては、少なくとも各々の研究者がプロジェクト対象の広がりや研究の進展具合を絶えずインプットして、自己の位置を確認する作業が研究の一部として欠かせないのは確かである。とはいえ、己の知的関心を追い求める研究者が自主的に結成した集団において、この作業を遂行するのはきわめて困難といえる。当プロジェクトの場合、参加メンバーが順次、『奄美ニューズレター』に登場することで、この難点を克服できている。

次に、開発方式という課題の性格に即してみれば、専門分化し、分析的手法に特化している学術研究は、この種のテーマと相性が悪い。というのも、提示される開発方式は、実際の事業の成否でもって評価を受ける。事例的な事業プランは、高いリスクが伴う市場テストまでの長い過程を経て評価に値する事業となる。その際、現場で事業化のプロセスを中心的に担うのは研究者ではなく、地域の人々である。奄美群島のケースでは、地元で大掛かりな学術研究機関が立地しておらず、研究者集団と地元の人々の間には越えがたい「距離」が横たわっている。専門情報の不足と実践上でのリスクに対処する知識の欠如という性格の異なる壁が、事業化にとって双方の障害となっている。この点に関しては、島嶼の側から実践に伴うリスク情報が提供され、専門的な関連情報とともに編集された本誌が、参加研究者と地域の人々の間に広く浸透するならば、事業化局面の行く手をさえぎる2つの壁は、大きく突き崩されるはずである。

私たちの意図が達成される保証はどこにもない。だが、出版事業にまったく素人の研究者たちが月刊の研究雑誌を刊行するという無謀な企画の背後には、こうした意図が込められている。発刊された『奄美ニューズレター』は、この間にあれこれの失敗を経験しながら、使命にふさわしい内容を盛り込んだ情報誌に成長しつつあると自負している。研究メンバーおよび地域の方々の積極的な投稿を得て、鹿児島大学と奄美群島の発展に関心抱く方々の間の架け橋になる新しいタイプの情報誌として広く認められる日が近いことを夢見ている。

## 目次

### ■研究調査レビュー

奄美群島における風化残積土（赤土等）の土質特性（その1）

北村 良介（鹿児島大学工学部）

中野裕二郎（鹿児島大学大学院理工学研究科）

深見 健一（鹿児島大学大学院理工学研究科）———1

島嶼社会の持続的発展のために（その2）

皆村 武一（鹿児島大学法文学部）———6

物流から見た奄美経済

山本 一哉（鹿児島大学法文学部）———13

島嶼における「法＝社会」研究の課題

米田 憲市（鹿児島大学法科大学院）———19

■ちーびし———25